

# 当院緩和ケアにおける介護施設との連携の 取り組みの紹介

都道府県がん診療連携拠点病院ネットワーク会議  
緩和ケア部会

2023年12月8日

岐阜県立多治見病院 緩和ケア内科部長  
伊藤浩明



# 当院緩和ケアにおける介護施設との連携の 取り組みの紹介

1. 当院の紹介、当院の緩和ケア体制の紹介
2. 介護施設との連携の取り組みの活動報告

# 1. 当院の紹介、当院の緩和ケア体制の紹介



「地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院」

岐阜東濃地域のがん診療連携拠点病院



# 1. 当院の紹介、当院の緩和ケア体制の紹介

## 岐阜県立多治見病院における緩和ケア体制について

- 1. 緩和ケアチーム**： 定期カンファレンス：月曜日17時～  
多職種ラウンド：平日は毎日13時～  
目的：一般病棟における緩和ケア支援（コンサルト方式）
- 2. 緩和ケア外来**： 定期枠：火曜日・木曜日の14時～・15時～（院外紹介優先）  
臨時枠：随時予定（院内紹介を随時施行）  
目的：症状緩和・ACP・緩和ケア病棟の入院判定
- 3. 緩和ケア病棟**：2010年6月開設 19床 「緩和ケア病棟入院料1」算定  
目的：症状緩和・療養場所の調整・レスパイト・看取り

# 1. 当院の紹介、当院の緩和ケア体制の紹介

## 岐阜県立多治見病院における緩和ケア体制 2022年度の実績

1. 緩和ケアチーム : 依頼件数:191件 ラウンド件数:479件  
定期カンファレンス検討事例件数:179件
2. 緩和ケア外来 : 外来患者数:324人(院内:84.3%、院外:15.7%)
3. 緩和ケア病棟 : 入院患者数:168人  
入院待ち日数:2日 【入院料1の要件:平均14日未満】  
死亡退院:83人(51.9%)  
生存退院:77人(48.1%)  
在宅退院:63人(39.4%) 【入院料1の要件:15%以上】  
施設転院:7人  
在院日数:12日(死亡転帰:10日、生存転帰:14日)

# 1. 当院の紹介、当院の緩和ケア体制の紹介

## 当院緩和ケアの地域との連携体制について

医療圏内の緩和ケア病棟  
との連携

岐阜県内の連携会議  
「岐阜県ホスピス緩和ケア病棟連絡協議会」  
尾張美濃地域の連携会議  
「尾張美濃緩和ケア会議 (OMPαC)」

各市の基幹病院緩和ケアチーム  
との連携

岐阜東部地域の緩和ケアチームの勉強会  
「岐阜東部地域緩和ケア研究会」

地域の在宅医療機関との連携

各施設との「事例検討会」

地域の在宅医療機関・緩和ケアチーム・緩和ケア病棟との連携体制  
の醸成に心がけてきた

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

ある体験…

緩和ケア病棟から介護施設へ転院した患者さんが、熱発によって救急搬送されることが2回発生、結局緩和ケア病棟での看取りとなった事例を経験

PCU:「看取り目的で介護施設へお願いしたのに、どうして…!？」

介護施設:「ご家族が「病院に来れば苦痛が緩和できるのでは?」、と言われたので…」

介護施設での看取りは難しいの? 看取りのできない介護施設もあるって聞いたけど…

そもそも介護施設はどんな種類があって、この地域ではどんなふう活動しているの?



## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

アクション① 緩和ケア勉強会の開催

アクション② 施設訪問



## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクション① 緩和ケア勉強会の開催

#### ● 開催テーマ:「看取り」を考える

在宅医療機関、介護施設の立場から地域で「人生」を支える  
それぞれの立場から「看取る」を語り明日からのケアにつなごう

● 開催日時 :2023年3月2日(木)18時～19時半

● 開催形式 :ハイブリッド形式(当院大会議室＋Web配信)

#### ● 開催概要／講師

①施設の概要、東濃地域における施設の状況／介護施設相談員

②介護老人保健施設の利用状況・看取り事例／介護施設医師

③施設での事例(サービス付き高齢者住宅・看護小規模多機能居宅介護施設)／在宅医・訪問看護師

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクション① 緩和ケア勉強会の開催

#### ● 開催の影響

##### ➤ 当院

→「具体的な事例をもとに、実際に施設に行って話を聞いてみよう」

→アクション②へつながる

##### ➤ 発表者(訪問看護師)のもとへ、地域の施設から、施設での看取りを一緒に進めていきたいとの連絡があった

→勉強会を通じた地域内での連携が創造された

# 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

## アクション② 施設訪問

### ● 活動計画の作成

#### <事前準備>

- 「施設での看取り」を推進するための当院緩和ケアスタッフの施設訪問について、病院上層部にその意義を説明し、訪問活動の了解を得た

#### <訪問する施設とそのタイミング>

- 緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来で関わったがん患者さんが施設と関連したタイミング（例：施設療養患者の受診・入院、PCU・一般病棟から施設への入所など）
- 施設と連絡をとり、連携を希望された施設へ直接訪問して見学や意見交換をし、顔の見える関係を育んでいく

#### <参加するスタッフ>

- 医師・看護師・薬剤師・MSW（参加するスタッフの職種・人数は状況により適宜調整する）

# 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

## アクション② 施設訪問

### ● 活動計画の作成

#### <施設への訪問内容>

- 施設見学
- 施設の体制について
- 関わった事例に対する振り返り
- 各施設で可能な症状コントロールについて  
(使用可能な薬剤・手技など)
- 看取り期の患者家族への向き合い方に関する課題について  
(特に介護スタッフに対して)
- 当院緩和ケア部門への要望について

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクション② 施設訪問

#### ● 活動計画の作成

##### <活動の到達目標>

- 「看取り期に予想される苦痛症状と、その緩和に必要な薬剤の表」を作成し、各施設において使用可能な症状緩和薬を準備する時の参考資料として、希望する施設へ配布する
- 「看取り時の介護スタッフの対応手順」についてのパンフレットを作成し、看取り期にあたって安心して対応できるような環境・体制を整えていく  
(「在宅で看取る家族のように対応する」ことが目標)

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクション② 施設訪問

#### ● 具体的な活動

- 施設見学:施設内の設備・環境の視察、介護スタッフの介護場面の見学など
- 施設の体制について:入所の手順、「意向書」の内容など
- 関わった事例に対する振り返り:
  - ・施設でできたこと、施設スタッフの抱えた課題、病院で家族に伝えておいてほしかったこと
- 各施設で可能な症状コントロールについて:
  - ・症状コントロール時に必要とする薬剤について  
(各施設で処方可能な薬剤・対応の体制など)
- 看取り期の患者家族への向き合い方に関する課題について
  - ・OPTIM「これからの過ごし方」など看取り期の説明資材の有無の確認、希望時の情報提供
- 当院緩和ケア部門への要望について:
  - ・介護施設入所時の情報提供に際して、この情報があると助かるという項目があるか
  - ・症状コントロール困難時の電話相談、緩和ケア病棟入院などの支援体制の説明 など

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクションから得られた緩和ケアの支援活動

#### ● 要望

- 一部の介護施設で使用している介護スタッフへの対応手順などの情報
- 看取り期の家族に対する話し方など、コミュニケーションスキルについての情報
- 施設とのオンライン相談の体制づくり(症状コントロール困難事例の相談、など)
- デス・エデュケーションについての資料:「これからの過ごし方」・「旅立ちの葉」
- 勉強会の開催:介護士向け勉強会、薬剤の勉強会、スピリチュアルケアの勉強会など

## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### アクションから得られた緩和ケアの支援活動

#### ● 実際の活動

##### ● 緩和ケアチーム：

- 緩和ケアチームが関わっていた患者が施設へ入所した時の情報提供  
(今後の療養の目標なども記載した、「緩和ケアチーム介入サマリー」を施設医に送る)
- 電話・メール相談、オンラインカンファレンスの開催  
(症状緩和や処置などに関する相談を、様々なチャンネルを通じて受ける)

##### ● 緩和ケア外来：

- ACP・セカンドオピニオンなどを目的とした外来  
(施設入所患者に対して、症状緩和だけでなく、見通しや療養目標などを家族と話し合う)
- PCU入院依頼・入棟面談  
(施設入所患者に対する、症状緩和目的などのPCU入院のための判定外来)

##### ● 緩和ケア病棟：

- 症状緩和目的の入院など  
(症状緩和のめどが立ったら施設へ再入所、または新しい療養場所を調整する)



## 2.介護施設との連携の取り組みの活動報告

### 介護施設での看取りを推進・支援するために…

#### ● これからも進めていきたいこと

##### 1. 熱意のある在宅医療機関・介護施設との顔の見える関係づくり

- 病院から送り出して看取りに至った患者に対して、デスクカンファレンスを開催して意見交換する
- 地域内で「看取りまでの意欲を持つ介護施設」の情報を収集し、こちらからアプローチしていく
- 症状緩和などを相談できるような、緩和ケア直通のホットライン(電話・メール)の周知・運用
- 困った時に緩和ケア病棟へ入院できる支援体制構築とその説明・周知

##### 2. 勉強会などを通じた地域内への情報発信

- うまく連携ができた事例、病院が学びたいことなどをテーマに勉強会を開催する

**頑張っている、頑張ろうとしている地域内の医療介護者を、病院側から認め、支える意思を伝えること**

# 当院緩和ケアにおける介護施設との連携の 取り組みの紹介

都道府県がん診療連携拠点病院ネットワーク会議  
緩和ケア部会



**ご清聴ありがとうございました**

岐阜県立多治見病院 緩和ケア内科部長  
伊藤浩明